

Title	武藤光朗・加藤寛編集 日本福祉国家の条件
Sub Title	
Author	松浦, 保
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1963
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.56, No.12 (1963. 12) ,p.1250(96)-
JaLC DOI	10.14991/001.19631201-0096
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19631201-0096">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19631201-0096</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

をみだすためには、市場（したがって究極的には消費）が、たえず拡がってゆくことを必要とするが、これはさらに市場の問題——これをシャハトは消費の問題という——への認識を深めるであろう。これに照らしてみれば、シャハトの三分は重商主義の理論的發展を正しくとらえているといえよう。この著作の業績についてもまた欠陥についても、この文献がすでに「学史上の一文獻」（訳者）であることを心にとめておくことが必要であろう。訳はよみやすくこなれている。原書名、Hyalmar Schacht, "Das theoretische Gehalt des englischen Merkantilismus, Berlin, 1900. (未  
来社・一九六三年七月刊・B4・二一六頁・五八〇円)

—野地 洋行—

武藤光朗  
加藤 寛 編集

『日本福祉国家の条件』

わが国の目標が福祉国家の建設にあるとせばしば唱えられながらも、さて「その福祉国家とはなにか」、また「わが国が福祉国家に

なるための条件はなにか」と質問されると、なにびとも「さて、それはと……」返答に窮してしまふ。福祉国家とは、それ程実体のつかみにくい概念であり、漠然とした目標なのである。

このような質問に積極的な解答をあたえようと試みたのが本書である。そして、わが国の福祉国家の条件をさぐり、みつけたことに成功している。

本書の内容は序論と四部から構成されている。序論では福祉国家の問題が、一面的には把握されないことが指摘され、経済、政治、社会の諸側面における歴史的過程の分析を通してのみ理解されることが説かれている。

第一部「日本福祉国家の経済的条件」においては、その条件が成熟期経済にあることが分析され、第二部「日本福祉国家の政治的条件」においては、国家権力の民主化を条件に、第三部「日本福祉国家の社会的条件」においては、階級対立の極小化と社会保障の充実とが条件に、それぞれあげられている。しかもわが国は、それぞれの条件において、程度の差こそあれ、一応、福祉国家に近づきつつあることが、本書から読みとることができ

よう。

第四部「福祉国家と社会主義」は専門分野を異にしたがらも、社会科学の研究者という共通の場をもつ執筆者達のシムボジウムである。福祉国家に対して共通の意識をもちながら、それぞれの立場からニュアンスの違った発言をしているのが興味深い。そのなかに、「福祉国家とは社会主義運動の沈黙物である」という言葉があるが、福祉国家という曖昧な概念を言いえて、なかなか妙味のある表現である。

本書は、民主社会主義研究会議の「福祉国家委員会」が過去一年間にわたっておこなわれた研究のみのりゆたかな成果である。われわれは、わが国の福祉国家の条件を解明するスタンダードな書として評価できよう。（春秋社・「日本経済の現状と課題」第5集・A5・二二五頁・四五〇円）

—松浦 保—